

家畜衛生情報

ヨーネ病を侵入させないために！

～ 今年度すでに県内で3頭の牛ヨーネ病が発生 ～

平成19年7月

● 県内のヨーネ病の発生概要

平成19年5月28日:関市 1頭 (平成12年5月30日生まれ:北海道産)

平成19年6月 5日:郡上市 1頭 (平成13年12月14日生まれ:自家産)

平成19年7月 3日:大垣市 1頭 (平成15年7月13日生まれ:自家産)

ヨーネ病の症状については昨年の衛生情報(平成18年10月発行)にて記載したところですので、今回はヨーネ菌の特徴について以下に記載します。また、裏面に近年の発生状況を示しました。

● ヨーネ菌ってどんなもの？ (北海道網走家畜保健衛生所「牛のヨーネ病」を参考)

- ・形態 小さな棒状の細菌で細胞壁が脂質に富み、抗生物質や一般的な消毒薬は効果がなく、自然環境下で長く生きています。
- ・生存期間 牛糞や黒土の中で約330日 凍結下で約365日
スラリーで約30日以内 乾燥状態の直射日光下 100時間以内
- ・抵抗性 熱には比較的弱く、60℃・60分、75℃・5分で死滅、有効な消毒薬(石灰乳、塩素剤)と併用することで効果的

● ヨーネ病を侵入させないためには

- ・日頃から牛の健康管理に心がけましょう。
- ・牛舎は定期的に消毒をしましょう。
- ・慢性下痢等の異常牛を発見したら、早めに連絡しましょう。
- ・牛の導入にあたっては、本病の清浄な農場から導入しましょう。

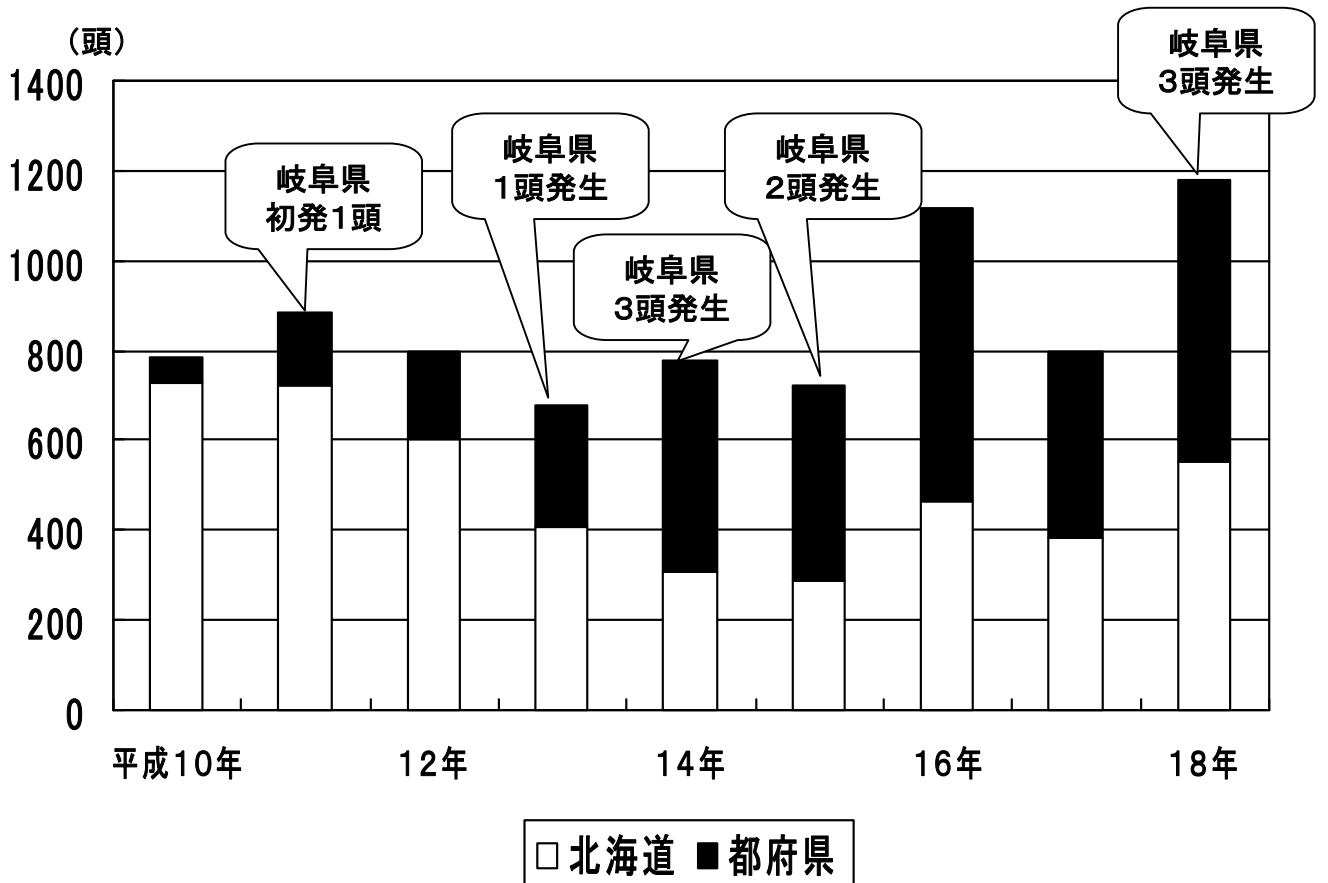


県外から牛を導入する場合は、必ず家畜保健衛生所に連絡し、ヨーネ病検査を受けて下さい。また導入牛は、隔離あるいは牛舎の端に繋ぐよう心がけて下さい。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp



(参考)

平成18年10月飛騨家畜保健衛生所家畜衛生情報より抜粋

● ヨーネ病はどんな病気？

- ・ヨーネ病の病原体はヨーネ菌とよばれる細菌で、感染すると腸で少しずつ増え、糞便中に排菌されます。
- ・ヨーネ菌を含む糞便で環境が汚染されると、飼料や水と一緒に口から感染します。子牛は特に感染しやすい傾向にあります。
- ・ヨーネ菌は環境中で長く生き延びます。
- ・潜伏期間には個体差がありますが、通常1年から数年と長く、症状もないまま経過していきます。
- ・症状の進行した牛では、慢性頑固な下痢。乳量低下、消瘦、貧血などがみられます。